

平成18年度

# 活動報告書

札幌医科大学

附属産学・地域連携センター

# 目次

1. センター長挨拶	5
2. センター1周年にあたって	7
3. 目標	9
4. 組織図	11
5. 活動スキーム	13
6. 活動報告	15
7. 知財教育実施報告	23
8. 文部科学省産学官連携コーディネーター報告	31
9. 活動記録	33
10. 刊行物	34
11. メールマガジンバックナンバー	35

## 1. センター長挨拶

本学の産学・地域連携センターは、大学の社会貢献を目指した諸活動の窓口として、中心的な役割を担っています。産学間の共同研究や大学間の教育研究交流、あるいは地域と連携したフィールドワークの実践など、多くのプロジェクトの推進支援窓口として、情報の集積と発信のターミナル的存在です。さらに、大学の社会貢献を目指した新しい試みを積極的に企画推進していく牽引車としての役割も担っています。

本学の活発な教育・研究・臨床からは、社会に還元することのできる価値の高い知的財産が、毎日のように生み出されています。これらの成果を、地域の人々の健康の増進と医療のレベルアップにつなげてゆくためには、知的財産の有効活用と産学連携による実用化の努力が欠かせません。本センターでは、弁理士、産学官連携コーディネーターなど、専門的なスタッフを擁し、高いレベルの知財活用と産学連携のサポート体制を整えています。

また、地域と連携したフィールドワークの実践も本学の大きな特徴です。当センターでは、地域と密接な連絡を取り合いながら、地域のニーズに即した健康づくり・医療の充実のための研究・教育活動をバックアップしていきます。

本学の産学・地域連携センターでは、皆さんの建設的なご意見、活発な参加をお待ちしております。

平成19年5月  
札幌医科大学附属産学・地域連携センター  
センター長 濱田洋文

## 2. センター1周年にあたって

平成18年4月にセンターが発足した。公立医科系の大学ではこのような研究シーズの社会還元を目指す組織は非常に珍しいものといえる。

発足の背景については、私自身も様々な思いがある。いち早く本学が知的財産管理に取り組んできたこと、これをさらに発展させ、大学院教育の中で知的財産教育に積極的な対応を行ってきたことも理由の1つである。

しかしながら、私は公立大学事務局職員特有の行政経験者といった立場から、大学間競争における「公立大学の危うさ」をあえて、一番の理由にあげたい。16年4月に国立大学は法人化した。ある種の護送船団方式から淘汰を目指した荒波の中に放り込まれたのである。少子化を背景に、存亡をかけている私立大学や淘汰に進む国立大学は地域貢献や産学連携といった取り組みを前面に出して、社会へ開かれた大学作りを進めている。

今、札幌医科大学のポジションを考える際に、一体、公立大学のタックスペイヤーである道民は何を求めているのだろうか。深刻な地域医療という昨今の現状から、極めて直線的に地域への医療人の供給、定着が最大のニーズであることを想起させることは残念である。本学が60年の歴史で培った財産を背景に、80%以上の卒業生が地域に定着している現状を大学の一員ならずとももっと、評価されてしかるべきであると思う。

そして、このバックボーンとなっているのが、本学の教育と研究シーズにあると言っても過言ではない。ただし、これらのシーズそのものが、本当に道民に解りやすく発信されていたのか、企業に活かせるよう還元されていたのかといえば、努力不足ではなかったのではないかと。どういった教育を行い、どういった研究を進めているのか、こうしたことを積極的に公表することは大学の責務であり、社会還元することは当然の義務といえるはずである。

昨年度発足したこのセンターは、そのツールである。教育シーズ、研究シーズを積極的に発信するためには、データベースの作成協力はもとより、教育改革プログラムのための提案、参画、共同研究をはじめ、各種競争的研究資金の獲得など一人ひとりにとっても様々な手段がある。これらの取組みを、研究者データベースの構築をはじめ、産学官連携コーディネーターによる事業紹介やパートナー探し、知的財産に関する相談、さらに科学研究費補助金や受託研究の対応など非常に少ないスタッフながら必死に取り組んでいる。体制そのものは、まだ、最小人数であるが特任教員の採用や外部人材の活用など弾力的な整備を進め、取り組みは一層、加速していかなければならない。

大学の一人ひとりが、このセンターの必要性を認識して頂き、一度は訪れる部屋として育っていくことを私自身期待している。それが、結果として本学の不得手だった部分、シーズの発信につながり、道民に期待される大学として再認識されるものと考えているからである。

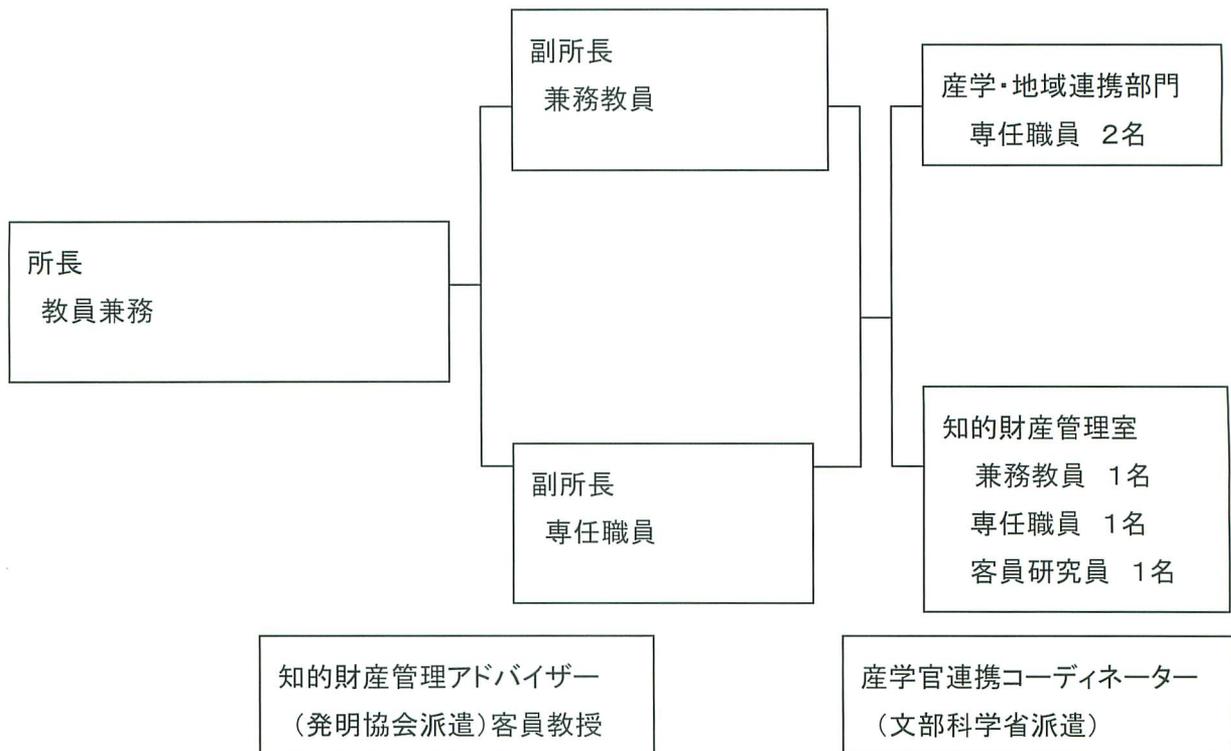
平成19年6月 北海道経済部産業振興課長  
(前札幌医科大学事務局経営企画課長) 辻 泰弘

### 3. 目 標

#### 大学の社会貢献の推進

1. 大学の力を社会・地域の健康増進・医療福祉の充実へつなげます。
2. 産学・地域連携センターは、窓口・企画・推進のワンストップサービスを提供します。

## 4. 組織図



### センター名簿（平成18年度）

所長 濱田洋文 教授（分子医学研究部門）  
 副所長（知的財産管理室長） 石埜正穂 助教授（衛生学講座）  
 副所長 杉本勇 主幹

産学・地域連携部門  
 市戸 敬二 主査  
 渋谷紀一郎 主事

知的財産管理室  
 室長 石埜正穂 助教授（衛生学講座）  
 黒須成弘 主査  
 小野寺雄一郎 客員研究員（小樽商科大学派遣）  
 佐々木素子 スタッフ

知的財産アドバイザー 佐々木信夫 客員教授（発明協会派遣）  
 産学官連携コーディネーター 一瀬信敏 客員研究員（文部科学省派遣）

## 5. 活動スキーム

### 知財の創出・保護・活用支援

#### ★ 知財の発掘

研究室訪問、発明相談等による知財の発掘など

#### ★ 権利化支援

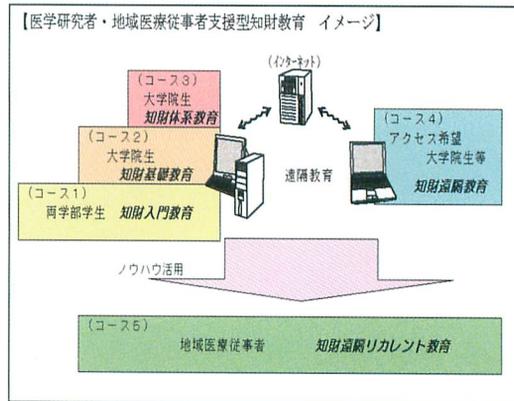
弁理士、特許庁との交渉、中間処理など

#### ★ 知財活用支援

各種展示会出展、企業との交渉など

#### ★ 知的財産教育の推進

(平成17年度文科省現代GP採択プログラム「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」)



### 産学官・地域連携

#### ★ 道内他大学との連携

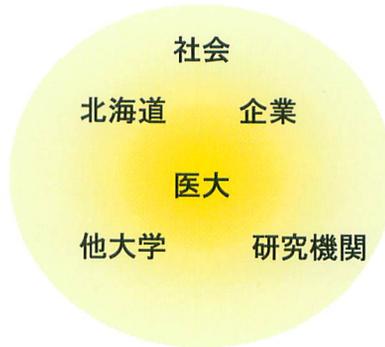
道内他大学との連携を推進

#### ★ 他研究機関との連携

道立研究機関との連携支援

#### ★ 企業との連携

センターの窓口機能、コーディネイト機能の一層の強化



医大の研究成果を社会に還元する

北海道から健康発信

## 6. 活動報告

### 1. 知的財産関係データ

発明相談	43
発明届出	12
特許出願	18
審査請求	0
登録	0

### 2. 共同研究、外部資金関係データ

共同研究件数	15
” 金額 (千円)	7,069
受託研究件数	38
” 金額 (千円)	58,013
外部研究資金総計 (千円)	89,200
研究者 (教員) 数 (人)	382

### 3. 各種展示会出展報告

#### (1) バイオエキスポ 2006

開催日 5月17日～19日

場 所 東京国際展示場

出展テーマ (参加者)

「様々なガンに有効な癌ワクチンとストレス蛋白質アジュバンドの  
開発」

第一病理学講座 鳥越俊彦 助教授

「高性能標的化抗体の新規樹立法開発と癌標的抗原の探索」

分子医学研究部門 濱田洋文 教授

加藤和則 助教授

文科省産学官連携コーディネーター 一瀬信敏

#### (2) イノベーションジャパン 2006

開催日 9月13日～15日

場 所 東京国際フォーラム

出展テーマ (参加者)

「新規の高機能モノクローナル抗体スクリーニング法」

分子医学研究部門 加藤和則 助教授

文科省産学官連携コーディネーター 一瀬信敏

#### (3) 東北・北海道地区大学・公設試等による食のフェア

開催日 11月3日

場 所 盛岡メトロポリタンホテル

出展テーマ (参加者)

「前立腺がんの宿主・環境要因に関する症例対照研究 (公衆衛生学講座)」

「母と子の健康と食生活に関する調査 (看護学第一講座)」

文科省産学官連携コーディネーター 一瀬信敏

#### (4) ビジネスエキスポ2006

開催日 11月9日～10日

場 所 アクセス札幌

医学部・保健医療学部併せて20の研究テーマを展示

客員研究員 小野寺雄一郎

文科省産学官連携コーディネーター 一瀬信敏



(ビジネスエキスポでの出展の様子)

平成18年度は全国規模の展示会（国際バイオ EXPO、イノベーションジャパン 2006）から北海道・地方の展示会（食のフェア、ビジネスエキスポ）へ本学から出展を行いました。別の展示会で医大ブースを訪れた方が再び医大ブースを訪問し情報交換を行うなど、本学の産学連携に関する取り組みが序々に各方面に浸透してきていることが感じられました。こうした展示を継続して行うことで、他大学の知財・産学連携に携わる方々との交流が広がっており、ネットワークの構築も進んでおります。

今後の展示会への出展に関しては、より多くの研究室のテーマを効果的に紹介することができるよう、余裕をもった学内周知期間の設定や、当日対応の効率化に努めたいと考えています。

(一瀬)

## 4. セミナー開催報告

### (1) 札幌医科大学・帯広畜産大学学術交流セミナー

開催日 11月8日

場 所 帯広畜産大学原虫病研究センターPKホール

参加者

「イソフラボン類のがん予防効果に関する共同研究の提案」

公衆衛生学講座 森 満 教授

「癌ワクチンの開発～基礎研究を臨床へ～」

第一病理学講座 鳥越俊彦 助教授

「スーパー標的抗体：がんを見つけて狙い撃ち」

センター所長（分子医学研究部門） 濱田洋文 教授

センター副所長（衛生学講座） 石埜正穂 助教授

文科省産学間連携コーディネーター 一瀬信敏



当日会場には帯広畜産大獣医学科4年生40名をはじめとして、教職員、十勝支庁、地元獣医師、地元マスコミ等合計60名弱の参加がありました。

セミナー冒頭では、帯広畜産大学副学長の長澤先生より歓迎の挨拶があり、異分野の交流の重要性と今後の両大学の共同研究の発展に対する期待が述べられました。

### (2) 科研費申請書作成レクチャー

開催日 9月25日、10月5日

場 所 教育北棟 北第一講義室

講 師 今井浩三 学長

第一病理学講座 佐藤昇志 教授

皮膚科学講座 神保孝一 教授

産学・地域連携センター 市戸敬二 主査



2日間でトータル200名弱の出席があり、講師、参加者ともに熱のこもったレクチャーとなりました。

平成18年度の科研費応募総数は310件となり、前回の290件を上回る応募がありました。本レクチャーとの相乗効果に期待したいと思います。

### (3) 現代GPセミナー 臨床研究とアカウンタビリティ（説明責任）の確保

開催日 2月28日

場 所 臨床研修センター

講 師 レックスウェ法律特許事務所長弁護士・弁理士 平井昭光氏



大学と企業等との連携の強化は重要ですが、一方で、研究費の提供者に対する特別な便宜供与(大学での業務責任よりも産学連携活動が重視されているなど)の疑いが生じることがあります。特に医学・医療の分野に関しては、被験者の安全性が関わることから、より慎重な対応が求められているところです。こうしたことから、知財教育シリーズの一環として、臨床研究とアカウンタビリティに関するセミナーを実施しました。当日は学長を初め臨床系の教員・研究者を中心に、20名ほどの参加者があり、活発な質疑応答がなされました。

## 5. 各種委員会開催、参加

〔産学・地域連携センター所管委員会〕  
〔産学・地域連携センター運営委員会〕

- (1) センター運営委員会
- (2) 知的財産活用委員会
- (3) 知的財産教育特別委員会 (SITE)
- (4) ヒトゲノム・遺伝子解析研究審査委員会
- (5) 遺伝子組み換え実験安全委員会
- (6) 指定実験室管理運営委員会

〔産学・地域連携センターが関与した主な学外委員会等〕

- (1) 北海道健康バイオ産業振興協議会
- (2) 北海道知的財産戦略本部専門委員会
- (3) 北海道TR拠点形成推進会議
- (4) 次期知的クラスター事業の提案に向けた検討会議

## 6. 各種情報発信について

- (1) センターメールマガジン  
創刊 9月1日  
配信先 学内外関係者  
発行回数 11回 (定期、増刊号)
- (2) 研究シーズ集、地域貢献シーズ集  
平成19年秋 発行予定 (暫定版は配布中)

## 7. 外部発表報告

### (1) 論文

- 1) 石埜正穂、一瀬信敏. 新しい医療技術の普及と知的財産リテラシー教育  
－医療技術移転の現場から－.  
パテント. 2007, 60:48-54.

### (2) 新聞連載

- 1) 石埜正穂 医療従事者と特許 (1) 「医療従事者と知的財産」  
北海道医療新聞 2006.6.9. 1632号 p2
- 2) 石埜正穂 医療従事者と特許 (2) 「医療技術の普及推進」  
北海道医療新聞 2006.6.23. 1634号 p2

- 3) 石埜正穂 医療従事者と特許 (3) 「知的財産制度」  
北海道医療新聞 2006. 6. 30. 1635号 p2
- 4) 石埜正穂 医療従事者と特許 (4) 「特許取得できる発明」  
北海道医療新聞 2006. 7. 7. 1636号 p2
- 5) 石埜正穂 医療従事者と特許 (5) 「有用性」と大学の役割」  
北海道医療新聞 2006. 7. 14. 1637号 p2

### (3) 紹介記事

- 1) 石埜正穂 Book Review 「理工系のための実践・特許法」.  
蛋白質 核酸 酵素 2006, 51: 285-286.

### (4) 学会発表

- 1) 一瀬信敏、石埜正穂 研究課題の可視化による札幌医科大学の研究活動の  
網羅的分析とその応用  
日本知財学会第4回学術研究発表会 2006年6月、東京
- 2) 石埜正穂、一瀬信敏. 医療研究者支援型の知的財産教育の試み.  
日本知財学会第4回学術研究発表会 2006年6月、東京
- 3) 石埜正穂、札幌医科大学における「医学研究者・地域医療従事者支援型知  
財教育」  
第8回日本医学教育学会大会. 2006年7月、奈良

### (4) 講演

- 1) 石埜正穂、一瀬信敏 中小企業でも取り組める医療分野との産学連携とは  
(医療関係技術とその実用化) .  
北海道中小企業家同友会5月例会、2006年5月10日、札幌
- 2) 石埜正穂 「医療・医学研究、技術移転と知財教育のあり方を考える」  
附属産学・地域連携センター発足記念現代GPシンポジウム  
2006年6月26日、札幌医科大学
- 3) 石埜正穂 「大学における知的財産管理体制構築の取組」  
知的財産シンポジウム2006 「知の創造拠点に向けて」(講演)  
2006年12月10日東京
- 4) 石埜正穂 「国際的な産学連携における今後の課題」  
知的財産シンポジウム2006 「知の創造拠点に向けて」  
2006年12月10日東京
- 5) 石埜正穂 「医療機器の管理と不具合情報について」  
高度管理医療機器継続研修会(北海道薬剤師会)、  
2006年9月2日(札幌)、10月21日(函館)、  
11月11日(札幌)、2007年2月10日(旭川)、  
3月10日(札幌)

(5) 学内カンファレンス  
「臨床研究と特許」

2007年2月27日、札幌医科大学第三内科

(6) 講義  
知財講義の項参照

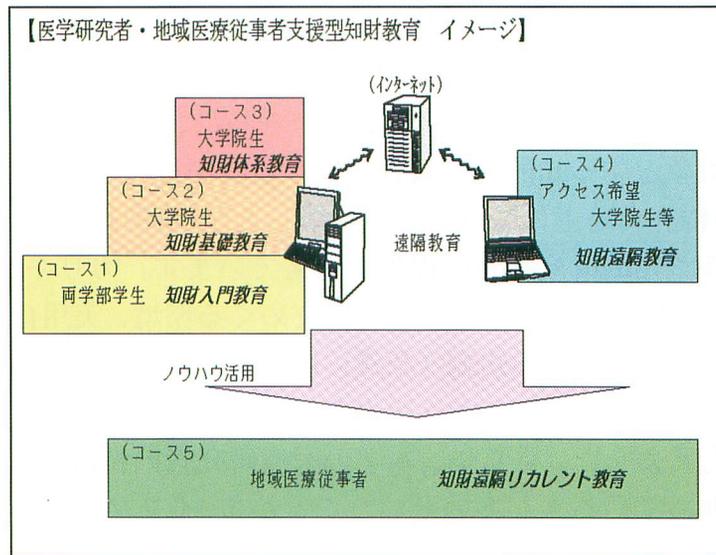
(7) 委員会  
石埜正穂 平成18年度北海道知的財産戦略本部専門委員会委員（北海道委嘱）

## 7. 知的財産教育実施報告（現代GP）

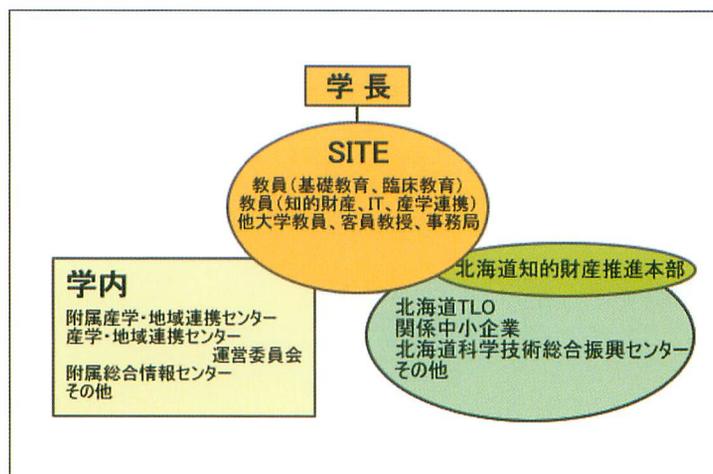
### 1. 概要

札幌医科大学では、文部科学省から平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に選定され、知財リテラシーを活用できる医療系研究者育成を目的とした知財教育を始めています。

### 知財教育実施スキーム



### 推進組織



## 2. 札幌医科大学における知財教育の取り組みについて

大学の医療研究者の特許に対する意識・知識レベルは決して高くはありません。このため、せっかく優れた研究成果が生まれても有効に知的財産化できず、産業界の支援が得られずに成果を十分に活用できないで終わるケースが散見されます。最近では大学のさらなる社会貢献が望まれる中、札幌医科大学においても、民間企業等との共同研究をサポートするなど、研究成果を積極的に社会に移転するための仕組みを整えつつあります。しかし、いくら大学当局が知的財産管理体制を整えても、研究者が特許を意識した研究を推進しなければ意味を持ちませんし、医療技術を熟知した上でそれらの知的財産化や実用化の道筋について判断できるような人材がいなければ、技術の十分な活用を図ることもできません。このような状況を打開するための最も効果的な方法は、当該分野の研究者に対する地道な教育・宣伝活動に尽きると言えます。

札幌医科大学においては、産学・地域連携センターを核に、大学院生、学部生、研究生、その他の医療研究従事者を対象とする知的財産教育の取り組みを行っています。従来、知的財産（特許など）の教育は法律や特許実務主体に行われてきましたが、本取組みではこれらと一線を画し、研究者支援を第一に考えた知的財産教育の提供を考えています。カリキュラムの内容としては、医療・バイオ技術における特殊な特許事情や、医療をめぐる環境、実用化までの壁の厚さなどに配慮しています。その中で、研究者の知識（意識）レベル、興味の対象や立場などに応じた教育が必要ということから、コース別にカリキュラムを組み、研究者のニーズにきめ細かく対応できるようなプログラムを考えました。さらに、本学の医療研究者の特徴として、遠隔地域での医療に携わりながら研究を進めている人が多いということから、インターネットなどを利用した遠隔地教育も平成19年度から展開する予定になっています。知的財産に対する意識と知識を有する医療人材の幅広い底上げが、新しい医療技術の地域・社会への適切な普及に貢献できるものと期待しています。

平成19年5月  
産学・地域連携センター副所長  
知的財産管理室長 石埜正穂

### 3. シンポジウム実施報告

#### (1) (平成17年度開催) 現代GPシンポジウム

「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育の確立を目指して」

開催日 平成18年2月21日(火)

場 所 記念ホール講堂

内 容

- 基調講演 「これからの医学研究と知的財産」  
(財)先端医療振興財団理事長 井村 裕夫氏
- 事例紹介 「バイオ・医学領域の技術経営、知的財産経営  
～京都大学における教育と研究の取り組み～」  
京都大学大学院医学研究科 田中秀穂 助教授
- 事例紹介 「札幌医科大学の知的持参教育の取り組みの紹介」  
産学・地域連携センター  
副所長(衛生学講座) 石埜正穂 助教授



(報告)

基調講演の講師は、元京都大学総長であり、長年医学研究に携わってこられ、また総合科学技術会議議員としても活躍された、財団法人先端医療振興財団理事長、井村裕夫先生でした。井村先生からは、医療関連特許の専門調査会の経験などを踏まえ、医学研究を巡る知的財産の状況について、講演があり、研究に携わる者にとって、「研究と知的財産との関わり」という視点から、自分たちの取組を見直すきっかけとなるものでした。

また、事例紹介として、京都大学大学院研究科において知的財産経営学コースに取り組みおられる田中秀穂助教授にもお出で頂き、バイオ・医学領域における技術シーズの発掘や管理、活用を担う人材育成の取組について、お話がありました。田中先生からは、技術移転のプロセスや、特に医学の分野において、知財の管理、活用にあたる人材の育成ニーズが高まっていることの講演があり、医学研究に係る知財活用状況の認識を新たにするものでした。

最後に、本学石埜正穂知的財産管理室長から、本学が取り組む知的財産教育プログラムについての紹介がありました。

シンポジウムには、本学教職員や技術移転機関関係者など約110名の出席があり、講演を熱心に聞き入っていたほか、大学による知財管理や知財教育を行う意義に関する質問が寄せられました。

なお、本シンポジウムについては、報告書を作成しましたので、ご希望がありましたら、本センターまで連絡願います。

(2) 附属産学・地域連携センター発足記念 現代GPシンポジウム  
「医療・医学研究、技術移転と知財教育のあり方を考える」

開催日 平成18年6月26日

場 所 記念ホール講堂

内 容

基調講演 「大学と知的財産 ～知的財産立国への貢献から～」

特許庁特許技監 守屋敏道氏

パネルディスカッション

特別講演 「新しい医療の実現と大学の役割」

日経BP社バイオセンター長 宮田満氏

○パネリスト

東京医科歯科大学知的財産本部特任助教授 橋本一憲氏

(株) リクルートテクノロジーマネージメント開発室シニアアソシエイト

杉本直樹氏

(独) 産業技術総合研究所ゲノムファクトリー研究部門副部門長 扇谷悟氏

札幌医科大学附属産学・地域連携センター副所長 石埜正穂

○コメンテーター

特許庁特許技監 守屋敏道氏

日経BP社バイオセンター長 宮田満氏

○司会

札幌医科大学附属産学・地域連携センター所長 濱田洋文



(報告)

基調講演は日本が知的財産立国を実現する上での大学の重要性と、各大学における知的財産活動についての紹介の後、医療関連発明については、医薬品や医療機器等の医療関連発明に関して、特許の対象範囲や研究上の留意点等について具体的な例を交えてお話がありました。

パネルディスカッションの特別講演ではバイオの技術革新の流れと、日本が抱える臨床試験(トランスレーショナルリサーチ)における問題点(アメリカとの比較)、今後バイオ・医療特許の重要性が増していくこと等についてお話がありました。

その後、橋本一憲氏から、大学における知的財産への取組、杉本直樹氏からは大学に所属する特許の技術移転ビジネスについて、扇谷悟氏からは独立行政法人化後の特許への取組、また石埜正穂助教授からは、札幌医科大学における知財の取組みと昨年度より開始された「医学研究者、地域医療従事者支援型知財教育」(現代GP)についての報告が行われました。

最後に宮田氏からは、医科系大学としてのコンパクトさを生かし、強みを発揮して欲しいこと、守屋技監からは、高いレベルの研究成果について権利化、実用化を図って欲しいことなど、お二人から札幌医科大学に対する期待を寄せて頂き、盛会のうちに終了いたしました。

当日は、学外からも、大学関係者、行政関係者、民間企業や財団法人関係者など約40名の参加があり、本学関係者を含めると100名以上の出席者が、3時間にも及ぶ長時間のシンポジウムに、熱心に聞き入っていました。

なお、今回のシンポジウムについての報告書を作成しました。詳しくは附属産学・地域連携センターまでお問い合わせ下さい。

#### 4. 知財講義実施報告

開催日	コース	テーマ	講師所属	役職	氏名
4月10日(月)	入門	知的財産権とその活用 (保健医療学部 3年生)	センター	副所長	石埜正穂
4月10日(月)	入門	知的財産権とその活用 (保健医療学部 4年生)	センター	副所長	石埜正穂
4月27日(木)	入門	知的財産権とその活用 (医学部 4年生)	センター	副所長	石埜正穂
6月29日(木)	入門	知的財産権とその活用 (医学部 3年生)	センター	副所長	石埜正穂
4月24日(月)	基礎	医学研究と知的財産権	札幌医科大学	学長	今井浩三
7月18日(火)	基礎	研究成果の保護～研究ノートの活用について (医学研究科基礎研究入門コース 第21講)	センター	所長	濱田洋文
7月18日(火)	基礎	本学における知的財産権の管理と活用について (医学研究科基礎研究入門コース 第22講)	センター	副所長	石埜正穂
10月3日(火)	基礎	バイオメディカル分野の特許化	センター	副所長	石埜正穂
10月6日(金)	基礎	研究成果の利用・活用と契約・法律	阿部・井窪・片山 法律事務所	弁理士	小林 浩
10月27日(金)	基礎	研究のオリジナリティを高める先行文献調査 ～特許におけるその意義と実際	特許業務法人 ピー・エス・ディ	弁理士	内海 司
			センター	産学官連携 CD	一瀬信敏
11月14日(火)	応用	特許明細書の構造と先行文献調査 －医療関連発明を中心として－	葛和国際特許事務所	弁理士	葛和清司
12月13日(水)	応用	国際契約にどう対処するか －Non Disclosure Agreement 等を手がかりに考える－	小樽商科大学大学院 ビジネススクール	教授	中村秀雄
12月22日(金)	応用	創薬技術・ビジネス論	京都大学大学院 医学研究科	助教授	田中秀穂
2月9日(金)	応用	企業知財マンからみた産学連携	オリンパス株式会社 知的財産渉外部	ライセンス 担当部長	酒井 貢

2月16日(金)	応用	バイオメディカル分野の研究の特許化について	東京大学大学院 新領域創成科学 研究科	助教授	上條 肇
2月28日(水)	特別	臨床研究とアカウンタビリティ(説明責任)の確保	レックスウェル法律 特許事務所調	弁護士・ 弁理士	平井昭光

## 5. 受講者からのコメント

### (1) 良かった点

- ・ 特許という概念であまり研究していなかったもので、参考となった。
- ・ 発見と発明に関する認識が新たになった。
- ・ 全体的にわかりやすく、内容が濃かった。
- ・ 特許調査の手順がわかりやすかった。
- ・ 今後の知財について再考する機会になりました。
- ・ 契約の仕組み、概要がわかった。

### (2) 今後の課題、意見など

- ・ 契約の話をもっと聞きたい。特に研究者同士の共同研究について。
- ・ 時間が足りなかった。
- ・ ビジネスの観点からも詳しい話しをお聞きしたい。
- ・ 企業との実際に行われている産学連携について具体的に聞きたい。
- ・ 特許と倫理について詳しく聞きたい。
- ・ 今後も特許の講義を続けて頂きたい。

## 6. 知財マインドの向上と、知財室の活動との連携の重要性

札幌医科大学（「医大」）は、平成14年12月から石埜現センター副所長を中心とし、学内の知的財産に関するインフラ整備を進めてきました。平成17年4月には知的財産管理室（知財室）を設け、知的財産ポリシー、勤務発明規程等を整えました。以後、医大研究者の発明のうち勤務発明として認められたものに関しては、権利を大学が管理することとなり、知財室が実際の業務に当たっています。

平成17年8月より小樽商科大学ビジネス創造センターは、医大から知的財産活用分析調査に関する業務委託を受け、知財活用支援スタッフを派遣しています。スタッフは私で2人目となり、先行技術調査をメインとしながら、医大での知財マインドの向上、知財マネジメントに関する業務を行っています。

医大知財室では、知財活用支援スタッフが全ての特許相談案件（シーズ）に対して先行技術調査を行うことで、より質を重視しいたずらに出願件数を増やさないよう、特許出願に耐えうるシーズ及び事業化に結びつくシーズを選別し権利化を目指しています。医大にはライフサイエンス分野に関連するシーズが多くありますが、この分野のシーズの特徴として、権利化及び実用化まで金銭的にも時間的にも労力を使うため、企業へのライセンス交渉の際に実用化を見すえて研究を進めていないと、交渉が難航する点が挙げられます。その理由は、研究から産業化までの、「研究→開発→事業化→産業化」といったステージ間それぞれに大きな溝が存在するからです。この溝がライセンス交渉の障害となるため、最初の研究から開発の溝を超えられるよう、シーズを成熟させることが極めて重要となります。

これからの知財室は、学内の研究者に対し知財マインドを向上する働きかけをすすめると共に事業化を視野に入れた研究戦略を助言していく必要があります。また並行して、大学から社会貢献が速やかに実践できるよう、産学官イノベーションサイクルのシステム構築や、産学・学学連携等を検討し外部資金を潤沢に流入できる体制を整えて行かなくてはなりません。幸いにも、医大では小樽商科大学をはじめ周辺大学との連携を進めており、各々のメリットを生かすことで北海道経済の活性化、さらには日本経済の活性化につながるイノベーションを起こすことが可能であると考えています。

附属産学・地域連携センター 客員研究員  
（小樽商科大学ビジネス創造センター）  
小野寺雄一郎

## 8. 文部科学省産学官連携コーディネーター報告

文部科学省産学官連携コーディネーター(CD)は、大学の産学官連携活動を推進するために、全国84の大学等(平成19年8月現在)に文部科学省から配置されている専門家です。札幌医科大学は平成17年7月から小樽医科大学と共同で1名(平成17年7月～平成18年3月吉野忠男氏、平成18年4月～一瀬信敏氏)の配置を受けています。

### 1. 会議等

- 5月11日・12日 バイオ・医学CD会議 弘前大学
- 5月25日・26日 北海道・東北地区CD会議 北海道大学
- 7月23日・24日 北海道・東北地区CD会議 東北大学
- 9月5日・6日 国立大学地域共同研究センター専任教員会議 山口大学
- 9月16日・17日 全国CD会議 東京
- 10月12日・13日 国立大学地域共同研究センター長会議 岡山大学
- 11月3日 北海道・東北地区CD会議 岩手大学
- 2月22日・23日 北海道・東北地区CD会議 札幌医科大学(幹事)
- 2月22日 JST, 経済産業局事業説明会実施 札幌医科大学

### 2. 展示会出展等

- 5月15日～17日 バイオエキスポ2006 東京ビッグサイト
- 9月13日～15日 イノベーションジャパン2006 東京国際フォーラム
- 11月3日 北海道・東北地区大学・公的機関による「食のフェア」  
異業種交流・産学連携フォーラム東北ブロック大会 盛岡
- 11月9日・10日 北海道ビジネスエキスポ アクセス札幌
- 3月8日～11日 AUTM (Association of University Technology Managers)  
アメリカ、サンフランシスコ

### 3. 他大学との連携、交流支援

- 11月8日 札幌医科大学・帯広畜産大学 学術交流セミナー 帯広畜産大学
- 3月29日 札幌医科大学・北海道医療大学連携協定締結

### 4. 企業への対応

- (1) 技術相談、共同研究のコーディネートなど
- (2) 企業訪問

### 5. 情報発信

- (1) 札幌医科大学研究シーズ集、地域貢献シーズ集 編集
- (2) センターメールマガジン編集担当

## 5. 他大学への支援

- (1) コーディネーター配置が無い道内大学へのアンケート調査、情報提供
- (2) 防衛医科大学校教職員との産学官連携に関する懇談会出席
- (3) 独立行政法人科学技術振興機構（JST）、北海道経済産業局による事業説明会実施
- (4) 北海道東海大学旭川校研究シーズ調査

## 6. コーディネーター活動について

平成18年度は札幌医科大学・小樽商科大学共同配置コーディネーター（CD）としての1年目に当たり、札幌医大においては研究シーズの発掘から知財権利化、実用化への道筋をつける活動を中心に、小樽商大においては学内の知財管理体制の整備と産学官連携活動の支援を中心に活動を行いました。特に、札幌医科大学における知財の活用という面では、地方における単科大学の特徴を活かし、CDのネットワークを通じて他の大学と相互補完を行えるような大学間連携の構築を目指しました。

また、学内外の産学官連携に関する理解の促進を期するために、各種セミナー、講演等に出席、発表等を行いました。さらに、CDが配置されていない他大学への情報提供などの支援も行いました。こうした活動を通じ、札幌医大の産学官連携活動が序々に「見えて」来ているように感じられたところです。

大学内の産学官連携制度の整備の際や、予想される海外企業との交渉など、CDに求められる役割は広く、大きくなっています。大学におけるCDの役割の中で私自身が持っていない知識等については、CDの全国ネットワークを通じて、先行した取り組みを行っている大学の先行事例等を積極的に取り入れたいと考えております。また、今後得られた知識や経験を学内外に積極的に情報発信します。

平成19年4月1日に医大は法人化しましたが、今年度からは最高レベルを目指す医科大にふさわしい産学・地域連携活動とは何か自問しながら各種活動を進めたいと思います。

平成19年5月

文部科学省産学官連携コーディネーター 一瀬信敏

## 9. 活動記録

日時	内容
4月10日	(知財講義) 知的財産権とその活用 (保健医療学部3年生)
4月10日	(知財講義) 知的財産権とその活用 (保健医療学部4年生)
4月27日	(知財講義) 知的財産権とその活用 (医学部4年生)
5月17日～19日	バイオエキスポ2006 出展
6月26日	センター発足記念 現代GPシンポジウム 医療・医学研究、技術移転と知財教育のあり方を考える 開催
6月29日	(知財講義) 知的財産権とその活用 (医学部3年生)
7月18日	(知財講義) 研究成果の保護～研究ノートの活用について (医学研究科基礎研究入門コース第21講)
7月18日	(知財講義) 本学における知的財産権の管理と活用について (医学研究科基礎研究入門コース第21講)
9月13日～15日	イノベーションジャパン2006 出展
9月25日	科研費申請書作成レクチャー (第一回)
10月3日	(知財講義) バイオメディカル分野の特許化
10月5日	科研費申請書作成レクチャー (第二回)
10月6日	(知財講義) 研究成果の利用・活用と契約・法律
10月27日	(知財講義) 研究のオリジナリティを高める先行文献調査 ～特許におけるその意義と実際
11月3日	東北・北海道地区大学・公設試等による食のフェア 出展
11月8日	札幌医科大学・帯広畜産大学学術交流セミナー 開催
11月14日	(知財講義) 特許明細書の構造と先行文献調査 －医療関連発明を中心として－
11月9日～10日	ビジネスエキスポ2006 出展
12月13日	(知財講義) 国際契約にどう対処するか －Non Disclosure Agreement 等を手がかりに考える－
12月22日	(知財講義) 創薬技術・ビジネス論
2月9日	(知財講義) 企業知財マンからみた産学連携
2月16日	(知財講義) バイオメディカル分野の特許化について
2月27日	学内カンファレンス 臨床研究と特許 第三内科 開催
2月28日	現代GP特別セミナー 臨床研究とアカウンタビリティ (説明責任) の確保 開催

## 10. 刊行物

- (1) 平成18年度現代GPシンポジウム報告書  
「医療・医学研究、技術移転と知財教育のあり方を考える」
  
- (2) 啓発パンフレット  
「研究成果の特許出願と、実用化までのプロセスについて」

# 1 1. メールマガジンバックナンバー

---

△▼札幌医科大学 附属産学・地域連携センターメールマガジン△▼

---

■創刊号■ 2006年9月1日発行

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>

この度、附属産学・地域連携センターではメールマガジンを創刊し、センターの活動内容や、各種セミナー、講演会の情報、また外部研究資金などの公募情報を学内の教職員、学生の皆さんにお届けすることにいたしました。本メールマガジンに関するご意見、ご要望などは産学・地域連携センターまでお寄せ願います。

◆本メールマガジンは「学長室だより」の受信アドレスに配信しております◆

\*\*\*\*\*

## ▲目次▼

1. センター所長挨拶
2. センターからのお知らせ
3. 活動報告
4. 知財ミニコラム
5. センターの紹介

\*\*\*\*\*

---

## 1. センター所長挨拶

---

本学の産学・地域連携センターは、大学の社会貢献を目指した諸活動の窓口として、中心的な役割を担っています。産学間の共同研究や大学間の教育研究交流、あるいは地域と連携したフィールドワークの実践など、多くのプロジェクトの推進支援窓口として、情報の集積と発信のターミナル的存在です。さらに、大学の社会貢献を目指した新しい試みを積極的に企画推進していく牽引車としての役割も担っています。

本学の活発な教育・研究・臨床からは、社会に還元することのできる価値の高い知的財産が、毎日のように生み出されています。これらの成果を、地域の人々の健康の増進と医療のレベルアップにつなげてゆくためには、知的財産の有効活用と産学連携による実用化の努力が欠かせません。本センターでは、弁理士、産学官連携コーディネーター、知的財産管理アドバイザーなど、専門的なスタッフを擁し、高いレベルの知財活用と産学連携のサポート体制を整えています。

また、地域と連携したフィールドワークの実践も本学の大きな特徴です。当セ

---

△▼札幌医科大学 附属産学・地域連携センターメールマガジン△▼

---

■第2号■ 2006年10月3日発行

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>

センターメールマガジン第2号をお届けします。今号では先日東京で開催されたイノベーションジャパン2006出展報告を中心に、センターからの各種お知らせを掲載しております。

▲目次▼

1. 科研費申請書作成レクチャーの開催について
2. イノベーションジャパン 2006 出展報告
3. センターからのお知らせ(2件)
4. 知財ミニコラム

◆本メールマガジンは「学長室だより」の受信アドレスに配信しております◆

---

1. 科研費申請書作成レクチャー開催について

---

9月25日に開催された第1回科研費申請書作成レクチャーには、多数のご参加ありがとうございました。当日は100名ほどの参加者を前に、今井学長、佐藤教授から情熱のこもったお話をして頂きました。このような試みは全国の大学を見渡してもまだまだ珍しいものです。

第2回のレクチャーを10月5日の午後6時から神保教授、当センターの市戸主査を講師に予定しておりますので、第1回に引き続き、多数のご参加をお待ちしております。

---

2. イノベーションジャパン2006出展報告

---

先日の増刊号でも少し触れたように、9月13日～15日の3日間に渡り、東京で開催された「イノベーションジャパン2006・大学見本市」に本学の研究シーズの

出展を行いました。会期中は分子医学研究部門助教授で、当センターの運営委員会委員である加藤先生と産学官連携コーディネーターの一瀬が会場で研究内容の説明など来場者(主として企業の方々でした)への対応に当たりました。

特に加藤先生にはご多忙な中、ほぼ3日間にわたり会場に詰めていただきました。ここに改めて加藤先生のご協力に感謝いたします。また、先生より出展した感想等を寄せて頂きましたので併せて掲載いたします。

#### △▼イノベーションジャパン2006 大学見本市 に出展して

##### ●医学部・教育研究器機センター・分子医学研究部門 助教授 加藤和則

この見本市は科学技術振興機構(JST)とNEDO技術開発機構が主催の国内最大規模の産学マッチングイベントで、大学研究者が最先端分野の技術・知財を紹介し実用化・ビジネス化を目指したマッチング・交渉を促進するイベントです。札幌医大産学・地域連携センターとしては初めての出展でしたが、医療・バイオの分野には道内からは北海道大学をはじめとして、北見工大、室蘭工大、帯広畜産大も出展しており、予想以上の出展数で驚きました。また3日間の総来場者数も約4万人と昨年を大きく上回り、大きな医学系学会に匹敵するほどの賑わいでした。

札幌医大のブースには、私が所属する分子医学研究部門の研究成果(癌に対するスーパー標的化抗体の樹立とその応用・実用化研究)をパネルで紹介したとともに、本学の各研究室の研究成果をまとめた資料を配布いたしました。予め準備していた資料が2日で全てなくなり、追加で資料を取り寄せなければいけないぐらい好評で、興味を示す企業も数多くあり、産学連携への意識の高さを痛感いたしました。

また会期中に共同研究に向けて体外診断薬開発企業2社および治療医薬開発企業1社との具体的なミーティングも行うことができ、出展の成果も挙げる事ができました。来年度は多くの研究室から研究成果を発表し、産学連携研究として更に発展できることを願っております。

##### ●附属産学・地域連携センター 文科省産学官連携コーディネーター 一瀬信敏

これまで様々な見本市に参加して来ましたが、このイベントで印象的であったのは研究シーズの展示の他、各大学の知財本部や産学連携センターといった部門からの展示が多かったことでした。こうしたブースでは大学内の研究シーズの一覧

の展示や大学の知財・産学連携活動に関する取り組みそのものの紹介の展示を行っており、今後のセンターの活動の参考としたいと思います。

また、本年度は5月に東京で開催された「国際バイオ EXPO」というイベントにも本学から出展を行いました。その際に医大ブースにいらした方が今回も再び見えたりと、本学の産学連携に関する取り組みが徐々に各方面に浸透してきていることが感じられました。こうした展示を継続して行うことで、私自身、他大学の知財・産学連携に携わる方々との交流が広がっており、こうした方面でのネットワークの構築も進んでおります。

今後のこうした展示会への出展に関しては、より多くの研究室のテーマを効果的に紹介することができるよう、余裕をもった学内周知期間の設定や、当日対応の効率化に努めたいと考えています。

---

### 3. センターからのお知らせ

---

#### △▼帯広畜産大学との学術交流セミナーについて

創刊号でもお知らせした、帯広畜産大学獣医学科との学術交流セミナーにつきまして、日程と会場が決まりましたのでお知らせします。

日時：11月8日(水)午後

会場：帯広畜産大学 原虫病研究センター PK ホール

テーマ：腫瘍について(医大から3名、帯広から3名の教員によるプレゼンを行います)

現在、当日会場で展示する各研究室からの研究内容のパネル原稿については、既に15件の提出を受けております。ご協力いただき感謝申し上げます。当初、提出受付を9月中と予定していたところですが、より多くの研究テーマをご紹介したいと考えておりますので、お忙しい中、誠に恐縮ですが引き続き原稿提出のご協力をお願いいたします。

#### △▼産学・地域連携センターのホームページが新しくなりました

この度、当センターのホームページをリニューアルいたしました。

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>

今後はホームページの更新頻度と情報の質の向上に努め、外部研究資金の公募情報等の情報や、知財教育に関する取り組みなど、センターの活動についてもできる限りリアルタイムで発信して参ります。本メールマガジンともどもよろしくお願いいたします。

---

#### 4. 知財ミニコラム

---

先の増刊号でもお知らせしたとおり、今週は知的財産教育基礎コースを開催します。

10月3日(火) 18:00～「バイオメディカル分野の研究の特許化」

10月6日(金) 18:00～「研究成果の利用・活用と契約・法律(仮)」

場所(2回とも) 基礎医学研究棟5階会議室

対象は大学院生ですが、教員をはじめ、学内外どなたでもご聴講いただけます。多数のご参加をお待ちしております。

---

#### ☆編集後記

本メールマガジンの編集を担当している文科省産学官連携コーディネーター(以下 CD)の一瀬です。私は文部科学省の産学官の連携事業の一環として、文科省から札幌医大に派遣されておりますが、本事業で現在、全国のおよそ80の大学等に91名の CD が派遣されています。

先日、年に1回の全国 CD 会議ということで、東京に全 CD が集合しました。その中で外部研究資金の獲得も大きな課題として挙がっておりました。他大学では申請書の添削といった個別指導のような取り組みを行っているところはいくつかあるようでしたが、本学のように大学としての取り組みにまで至っているところは無いようでした。

本学の申請書作成レクチャーは新しい取り組みであり、今後の競争的外部資金獲得に大きな役割を果たすことが期待できます。

また、全体討論では他大学の CD から本学の知財に関する取り組みが言及されるなど札幌医大の様々な活動が徐々に「見えて」来ているように感じられました。(IN)

---

---

△▼札幌医科大学 附属産学・地域連携センターメールマガジン△▼

---

■第3号■ 2006年11月20日発行

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>

センターメールマガジン第3号をお届けします。今号では今月締め切りの科研費応募状況などを中心に、センターからの各種お知らせを掲載しております。

▲目次▼

1. 科研費申請書作成レクチャーについて
2. 科研費応募状況について
3. センターからのお知らせ
4. 知財ミニコラム(2件)

◆本メールマガジンは「学長室だより」の受信アドレス、ご登録頂いたアドレス、ならびに SMU バイオリソースシステムの協力を得て、機器予約センター登録アドレスに配信しております◆

---

1. 科研費申請書作成レクチャーについて

---

9月25日、10月5日の2日間にわたって開催された科研費申請書作成レクチャーには、多数のご参加ありがとうございました。第1回目は今井学長、佐藤教授(第一病理)、第2回目は神保教授(皮膚科学)、市戸主査(産学・地域連携センター)から科研費申請の心構えや書類作成のコツ、注意点などをレクチャー頂きました。2日間でトータル 200 名弱の出席があり、講師、参加者ともに熱のこもったレクチャーとなりました。ご講義ならびにご参加ありがとうございました。

---

2. 科研費応募状況について

---

科研費申請に関しましては11月6日を学内締切日とさせて頂いておりましたが、書類整理ならびに申請書訂正等のご協力ありがとうございました。今回の学内の応募総数は310件となり、前回の290件を上回る応募がありました。今年の前項で触れたように申請書作成レクチャーなどの新たな試みも導入したところです。これらの相乗効果に期待したいと思います。

---

### 3. センターからのお知らせ

---

#### △▼各種助成金のお知らせ(新着分)

##### 【国費】

- ・大学共同利用機関法人自然科学機構【基礎生物学研究所】  
重点共同利用研究他 6件
- ・大学共同利用機関法人自然科学機構【生理学研究所】  
一般共同研究他 6件
- ・大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構【素粒子原子核研究所】  
施設共同利用研究 1件

##### 【民間財団】

- ・(財)秋山記念生命科学振興財団 2件
- ・(財)がんの子供を守る会 1件
- ・(財)日本二分脊椎・水頭症研究振興財団 数件
- ・公益信託「生命の彩」ALS 研究助成金 5件以内
- ・アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社 6件

\* 助成金の詳細はセンターの以下のページをご参照ください(学内限定)。

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/internal/kokuhi.html>

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/internal/minkan.html>

---

### 4. 知財ミニコラム

---

#### △▼特許出願について

今年度上半期(～9月)の大学管理の特許出願件数は国内出願(7件)、外国出願(3件)あわせて10件となっており、去年の件数を上回るペースです(去年の大学管理による出願件数は11件)。

特許出願にはその発明が新規性・進歩性・産業上の利用性を満たしていることが必要ですが、特に新規性の観点からは、「どこにも発表していない(公知でない)」ということが重要です。これは発明者自身による学会発表であっても、それが出願前であれば「公知の事実」ということになり、その発明に関しては新規性を失ってしまうため、出願できなくなる、ということです。また、学会だけでなく、報道機関等の取材などにも注意する必要があります。良い研究成果を良い特許にするために、学会発表等の際にはご注意くださいとともに、センター(内2108, 2107)にお気軽にご相談ください。センターでは、ご相談からおよそ3ヶ月以内で特許庁に出願できるよう、特許事務所等との調整、連絡を行っております。先生方のご協力、よろしくお願いいたします。

#### △▼知的財産教育応用コース講義の予定

- ◆12月13日(水) 18:00～「国際契約にどう対処するか  
-Non Disclosure Agreementを手がかりに考える-(仮題)」

講師 小樽商科大学院商学研究科(ビジネススクール)中村秀雄 教授

- ◆12月22日(金) 18:00～「創薬技術・ビジネス論(仮題)」

講師 京都大学大学院医学研究科 田中 秀穂 助教授

場所(2回とも) 基礎医学研究棟5階会議室

対象は大学院生ですが、教員をはじめ、学内外どなたでもご聴講いただけます。

多数のご参加をお待ちしております。

#### ■訂正■

先月号のメールマガジンの記事「イノベーションジャパン2006出展報告」中で、出展者の加藤先生のお名前が抜けておりました。お詫びして訂正いたします。

---

☆編集後記

　　今月8日にこのメールマガジンでお知らせしておりました、帯広畜産大学・札幌医科大学の学术交流セミナーが帯広で開催され、私も行って参りました。当日は獣医学科4年生40名を含め60名弱の参加がありました。詳しくは次回のメールマガジンで報告したいと思います。セミナーで講演していただいた先生方、また研究シーズ提出のご協力を頂いた先生方に改めて深く感謝いたします。(IN

---

---

△▼札幌医科大学 附属産学・地域連携センターメールマガジン△▼

---

■第4号■ 2006年12月11日発行

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>

センターメールマガジン第4号をお届けします。今号では先月行われました帯広畜産大学との共同セミナー開催報告の他、知財講義開催のお知らせなどを掲載しております。

▲目次▼

1. 知的財産教育応用コース講義のお知らせ
2. 帯広畜産大学との共同セミナー開催報告
3. センターからのお知らせ
4. 知財ミニコラム

◆本メールマガジンは「学長室だより」の受信アドレス、ご登録頂いたアドレス、ならびにSMUバイオリソースシステムの協力を得て、機器予約センター登録アドレスに配信しております◆

- 
1. 知的財産教育応用コース講義のお知らせ
- 

国際契約にどう対処するか-Non Disclosure Agreement 等を手がかりに考える-(仮題)

日時: 12月13日(水) 18:00～

場所: 基礎医学研究棟5階会議室

講師: 小樽商科大学大学院商学研究科(ビジネススクール) 中村秀雄 教授

内容: 中村先生は2001年3月まで、総合商社で国際法務を約25年担当され、多くの契約を作成・交渉してきた経験をいかして、実務と理論の双方の観点から研究を進められています。今回は、秘密保持契約や研究契約などの具体的な事例をふまえながら、外国大学・企業との共同研究契約の際にも必要な、国際契約の構造や対応の考え方などの講義を予定しています。

---

## 2. 札幌医大・帯広畜産大学術交流セミナー

---

本メールマガジンでも度々お知らせしておりました、帯広畜産大との学術交流セミナーを11月8日(火)に帯広畜産大にて開催しました。当日は、天候の影響で帯広行きのJRが運休になるなど、若干トラブルに見舞われましたが、会場には帯広畜産大獣医学科4年生40名をはじめとして、教職員、十勝支庁、地元獣医師、地元マスコミ等合計60名弱の参加がありました。

セミナー冒頭では、帯広畜産大学副学長の長澤先生より歓迎の挨拶があり、異分野の交流の重要性と今後の両大学の共同研究の発展に対する期待が述べられました。

内容は医大からは濱田教授(分子医学・「スーパー標的抗体:がんを見つけて狙い撃ち」)、森教授(公衆衛生・「イソフラボン類のがん予防効果に関する共同研究の提案」)、鳥越助教授(第一病理・「癌ワクチンの開発～基礎研究成果を臨床へ～」)、畜産大からは嘉糠教授(原虫病研・「マラリア媒介蚊における標的認識メカニズムの解明に向けて」)、小川助教授(大動物特殊疾病研・「糖鎖抗原  $\alpha$ -gal epitope:免疫反応の制御とワクチンへの応用」)、嶋田教授(家畜外科・「獣医療における腫瘍性疾患に対する治療の現状と未来」)の6名の先生によるプレゼンテーションを行いました。

また、当日はプレゼンの予稿集と両大学のシーズ集をまとめて冊子にしたものを配布しました。医大はシーズの提出を頂きました19の講座・部門から22の研究シーズ、畜産大は15の研究シーズを掲載しております。シーズ提出のご協力につきまして改めて感謝いたします。本冊子は若干残っておりますので、連絡をいただければ希望者にお配りします。

---

## 3. センターからのお知らせ

---

### △▼(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)

#### 大学発事業創出実用化研究開発事業について

本事業は大学の若手研究者・チーム(40歳未満)が、自らの研究成果を活用して民間事業者等と共同で実用化を図る研究テーマに対し、民間事業者等からの提供資金の2倍を限度に最大で年間1000万円(最長3年間)の助成を行うものです。

平成19年度の新規募集は来年4～5月頃予定とのことです(事業開始は7～8月)。本事業の詳しい内容のパンフレットや、応募に関するご相談など、センター(内2108、小野寺)まで気軽にご相談ください。

また、NEDO ではテーマ公募型事業の採択にあたり実施しているピアレビュー制度に協力頂けるピアレビューの登録も受け付け中です。詳しくはセンターまでお問い合わせください。

---

#### 4. 知財ミニコラム

---

研究成果が実用化されるまでのプロセスを把握することにより、それらを意識した研究を推進することが重要といわれています。

応用コースでは、研究成果実用化の最前線で活躍されている方から講演いただくなどして、今後の研究活動に活かしてもらうことを目的としています。

#### △▼知的財産教育応用コース講義の予定

##### ◆12月22日(金) 18:00～「創薬技術・ビジネス論(仮題)」

講師 京都大学大学院医学研究科 田中 秀穂 助教授

場所 基礎医学研究棟5階会議室

対象は大学院生ですが、教員をはじめ、学内外どなたでもご聴講いただけます。多数のご参加をお待ちしております。

---

#### ☆編集後記

先日、保健医療学部赤レンガフォーラムに参加して参りました。佐野別海町長や本学保健医療学部の先生方から、地域や保健医療学部における高齢者の健康増進に関する様々な取り組みに関する発表がありました。会場は満員で、熱心にメモをとりながら講演を聴いている多くの参加者の姿が印象的でした。

今年最後のメールマガジン定期号です。内容など、まだまだ発展途上であると考えていますが、なるべくみなさんに読んでいただけるよう頑張ります。来年もよろしく願い致します。(IN)

---

---

△▼札幌医科大学 附属産学・地域連携センターメールマガジン△▼

---

■第5号■ 2006年2月7日発行

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>

今年最初のセンターメールマガジン第5号をお届けします。今号では現在とりまとめをすすめております「札幌医科大学研究シーズ集」「札幌医科大学地域連携シーズ集」の作成状況を中心に各種お知らせを掲載しております。

☆公募情報 New!☆

国費等公募案内 <http://web.sapmed.ac.jp/ircc/internal/kokuhi.html>

民間財団助成金案内 <http://web.sapmed.ac.jp/ircc/internal/minkan.html>

▲目次▼

1. シーズ集作成について
2. 知的財産教育講義のお知らせ(2件)
3. センターからのお知らせ(科研費予算執行について)

◆本メールマガジンは「学長室だより」の受信アドレス、ご登録頂いたアドレス、ならびに SMU バイオリソースシステムの協力を得て、機器予約センター登録アドレスに配信しております◆

---

1. 札幌医科大学研究シーズ集、地域貢献取り組み集作成について

---

現在、センターでは学内の研究シーズと地域貢献の取り組みのとりまとめを進めております。この作業にあたっては、去年末に各所属長宛に研究シーズ、もしくは地域貢献活動の原稿提出のお願いを致しましたが、現在のところ、両学部併せて31の講座・部門から計42件のシーズの提出を頂いております。改めてご協力に感謝致します。未だ提出頂いてない講座、部門には改めてご連絡を差し上げますので、ご協力よろしくお願い致します。

---

## 2. 知的財産教育応用コース講義のお知らせ

---

### △▼企業知財マンからみた産学連携

日時: 2月9日(金) 18:00～

場所: 基礎医学研究棟1階会議室(前回までの会場とは異なっております)

講師: (株)オリンパス 知的財産渉外部 ライセンス担当部長 酒井 貢 氏

内容: 産学連携における昨今の状況の概説・問題点や、医療・ライフサイエンス分野の産学連携の特徴を、実例を交えながらお話し頂きます。

### △▼バイオメディカル分野の研究の特許化

日時: 2月16日(金) 18:00～

場所: 基礎医学研究棟5階会議室(9日の会場とは異なります)

講師: 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻  
知的財産インキュベーション戦略分野 助教授 上條 肇 氏

内容: バイオメディカル発明における、特許を睨んだ研究の進め方のヒントについて、特許庁審査官の経験や最近の研究を踏まえてお話し頂きます。

対象は大学院生ですが、教員をはじめ、学内外どなたでもご聴講いただけます。  
多数のご参加をお待ちしております。

---

## 3. センターからのお知らせ

---

科研費執行について、消耗品の購入決定書の提出期限は2月19日(月)となっております。よろしくご協力願います。

---

### ☆編集後記

2007年最初のメールマガジン定期号です。記事でも触れたように、現在センターがとりまとめを進めております、研究シーズ集、地域貢献取り組み集は、来年度以降の医大の産学官連携活動の核となる資料として、各種展示会での配布やHPを使った情報発信など、様々な活用していきたいと考えております。(IN)

---

△▼札幌医科大学 附属産学・地域連携センターメールマガジン△▼

---

■第6号■ 2007年4月6日発行

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>

メールマガジン第6号をお届けします。今号では新規公募情報やセンターからのお知らせを掲載しております。

▲目次▼

1. 新規公募情報(学振関係3件)
2. 知財ミニコラム(去年度の特許出願状況について)
3. センター移転のお知らせ

◆本メールマガジンは「学長室だより」の受信アドレス、ご登録頂いたアドレス、ならびに SMU バイオリソースシステムの協力を得て、機器予約センター登録アドレスに配信しております◆

---

1. 日本学術振興会特別研究員の公募について

---

(独)日本学術振興会平成20年度特別研究員募集のお知らせ

・平成20年度 海外特別研究員(締め切り 4月23日)

若手研究者の海外派遣に対する助成

<http://www.jsps.go.jp/j-ab/index.html>

・平成20年度 特別研究員(RPD)(締め切り4月23日)

出産・育児による研究中断者への復帰支援フェローシップ

[http://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd\\_gaiyo.html](http://www.jsps.go.jp/j-pd/rpd_gaiyo.html)

・平成20年度 特別研究員(DC1, DC2, PD, SPD)(締め切り5月25日)

若手研究者のフェローシップ

<http://www.jsps.go.jp/j-pd/index.html>

---

## 2. 知財ミニコラム

---

### △▼平成18年度特許出願件数について

平成18年度のセンター管理による医大からの特許出願件数は18件となりました。前年度の実績からは2件増という結果になりました。特許出願を審査してもらうためには出願後3年以内に特許庁に審査請求を改めて行う必要があります。医大においても本年から出願した案件に関する審査請求の検討を行うこととなりますが、関係の先生方のご協力をよろしくお願い致します。

---

## 3. センター移転のお知らせ

---

4月6日をもって附属産学・地域連携センターが本部棟4階から1階へ移転しました。新しい場所は本部棟1階旧大学改革推進室(本部棟1階エレベーター左奥)で、経営企画課(旧企画課)と同居します。これまでもセンターの活動には旧企画課から種々バックアップを受けておりましたが、今後は経営企画課とさらに連携を強めつつ各種活動を推進します。特許相談、企業との共同研究の相談等なにかありましたら、気軽にお越しください。

---

### ☆編集後記

先月、サンフランシスコで行われました大学技術移転マネージャー協会(AUTM)の大会に出席してきました。北米を中心に、ヨーロッパ、アジア、日本から総勢2000人も参加者が集まって、大学の技術移転の課題について議論を行いました。会場ではアメリカの大学の知財や産学連携の担当者と個別に知財教育や産学連携に関する意見交換を行って、海外とのネットワーク構築のきっかけがつかむことができました。

4月1日に医大は法人化しましたが、今年度からは最高レベルを目指す医科大にふさわしい産学・地域連携活動とは何か自問しながら各種活動を進めたいと思います。(IN)

---

(編集後記)

○「共同研究を行うきっかけとは、人と人との繋がりであり縁であるのだ」と、知財教育講義の講師をお引き受け頂いた企業の方のお話しをお聴きして感じました。来年度は、学内・学外の繋がりや縁を大切に活動・ご支援を進めて参りたいと考えております。(S)

○センター発足を受け、初めての活動報告書を作成しました。作成にあたっては各大学のセンター報告書を参考にしつつ、センターの業務内容がわかりやすく「見える」ことを目標にしました。Sさんの叱咤激励のおかげでラストスパートが完走できました。感謝します。(I)

札幌医科大学附属産学・地域連携センター  
平成18年度活動報告書

平成19年8月31日発行

編集・発行 札幌医科大学附属産学・地域連携センター  
印刷 ひまわり印刷株式会社

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

TEL 011-611-2111 (内)

E-mail [chizai@sapmed.ac.jp](mailto:chizai@sapmed.ac.jp),

[renkei@sapmed.ac.jp](mailto:renkei@sapmed.ac.jp)

HP <http://web.sapmed.ac.jp/ircc>